



今回の『すてっぷてっぷ』では、療育指導分野が行っている、主な活動や指導についてお伝えします。



本校の療育指導分野で行っている活動・指導

- ① 自閉スペクトラム症の児童生徒や学習上又は生活上の著しい困難を抱える児童生徒の支援や指導、アセスメント等の相談活動を行っています。
- ② 新転入生を中心に、安定した学校生活が送れるように担任や関係機関と連携をしています。
- ③ 必要に応じて、学級への入込み又は取出し指導を行い、つけた力が全ての学習や生活に般化できるように担任と連携しています。

支援や指導で大切にしていることは、児童生徒の好きなこと、得意なことを探り、強みを生かしながら苦手なことを克服するということです。

また、児童生徒の思いを引き出したり、その思いを相手に表出したりする力も重視しています。児童生徒一人一人の実態に応じたコミュニケーションツールや伝え方を探りながら、どの人でも、どの場所でも力を発揮できるよう意識し、取り組んでいます。

その他、姿勢や体の使い方、道具の扱い方、見え方、読み書きに関する相談は、作業療法士の資格をもつ内部専門家と共にアセスメントし、担任と一緒に支援、指導の方法を考えています。



指導の様子



児童生徒の実態に応じて様々な連携形態や指導方法を進めています。

自立活動の時間における指導



好きな感覚や好きなことを探っていきます。

「握る」動作へのアセスメントを行い、児童生徒にあった道具の提案をします。



自分で分かってできる経験を積み上げ、自信をもってやりきる力を育てます。



きもちのおんどけい



卒業後に向けて、自分の体調や思いを周りに伝える練習をしています。学習を通して自己理解へと繋げていきます。

教育活動全体を通じて行う指導



給食

食具の扱い方や口に入れる適切な量等、日常に生きる支援を提案します。

休み時間（コミュニケーション）

学習したことを様々な場面で般化できるように意図的な場面を設定し、指導します。



各授業（写真は体育、音楽の授業）



活動内容や量、待ち時間への支援等、全体の授業の中での個々の支援も提案します。
また、集団の場に参加しにくい児童生徒への指導方法を検討し、学習の保障をしていきます。